

学校内の「危ない!」を探して共有しよう

—小学5年生対象の安全授業—

仙頭 真希子 Sento Makiko 子ども安全ネットかがわ 代表・弁護士

弁護士として、事故や犯罪被害にあった当事者と接してきた経験から、子どもの事故や犯罪被害を未然に防ぐことの重要性を痛感。事故予防活動に力を入れている。2児の母

子どもを事故から守るために

子ども安全ネットかがわは、「子どもたちが安全で安心して暮らせる社会」をめざして、子どもの安全にかかわる専門家を中心に2018年9月に設立された任意団体です。設立のきっかけとなったのは、2017年4月、香川県内の保育施設で3歳の女兒が園庭の遊具に首を挟まれて死亡するという痛ましい事故が起きたことです。

当時、保育園児2児の母親であった筆者は、このことに大きな衝撃を受け、二度とこのような事故を起こしてはいけないと思いました。しかし、社会には再発防止に向けた具体的な取り組みをするためのしくみがありませんでした。

そこで、子育て当事者として、弁護士として、子どもを事故や犯罪被害から守るためのしくみを作りたいと考え、当団体を設立しました。

当団体では、①よりそう(保護者からの相談対応)②つたえる(安全授業や教員等への研修)③しる・かんがえる(シンポジウムや啓発)を3つの柱として活動してきました。本稿では、香川県善通寺市内の小学5年生を対象に行っている安全授業について紹介します。

「学校の安全」を学び考える

安全授業は、善通寺市教育委員会から委託を受けて、2020年度からスタートしました。市内には8校の小学校があり、毎年2校ずつ授業を行っています。2022年度は、市立東部小学校(5年生53名)と同南部小学校(5年生22名)で実施しました。講師はNPO法人Safe Kids

Japan 理事の大野美喜子さんです。

授業は3時限で構成されます。内容は、①「傷害は予防できる」ということを知る ②学校内の危険箇所を見つけ、けがを予防するための具体的なアイデアを資料にまとめる ③まとめた資料を発表する、の構成です。

傷害は予防できるという基本的な考えを身に付け、予防のための適切な行動を取ることができる大人を増やすためには、大人になってからの啓発より、子ども時代に学校の授業で学ぶほうが効果的と考え、本授業を企画しました。

1時限目の授業では最初に、児童たちに「日本の学校(保育園および幼小中高など)では、1年間に病院に行くほど重いけががどのくらい起きているでしょう?」というクイズを出します。答えは、100万件(10秒に1件)です。児童からは驚きの声が上がります。このように、病院に行くほどのけがが、全国で今この瞬間も起こり続けていることを知り、「予防できるけが」を防ぐ必要があることを児童たちに認識してもらいます。

そして、A「変えたいもの(=子どものけが)」B「変えられないもの(=年齢、天気など)」C「変えられるもの(=床の固さや遊具のルールなど)」に分けて、変えられるものを見つけていくABC理論とWHO(世界保健機関)による傷害予防の3E(教え合う[Education]、危ないところを直す[Environmental Modification]、ルールを決める[Enforcement])を学びます(図1)。

2時限目は、児童自身が学校内をめぐり、危ない箇所を見つけて、写真を撮ります(写真1)。

図1 傷害予防の3Eを分かりやすく解説



作成者：大野美喜子

写真1 学校内の危ない箇所を撮影する児童



写真2 発表のようす



図2 子どもらしいアイデアも



図3 資料「事故とヒヤリハットの危険地図」



企画・制作：子ども安全ネットかがわ、NPO法人 Safe Kids Japan

そして、それをワークシートに貼り、どのように危ないか、どのように変えれば危なくなくなるかアイデアをまとめます。

予防のためのアイデアは、今の技術でできるものに限りません。「溺れないように息ができる水を開発する」とか「マンホール上の砂が消える」など、常識では不可能だと思われるようなアイデアもどんどん出してもらおうようにしています(図2)。

3時限目は、児童たちが見つけた学校内の危険箇所と予防策を発表します。ほかの児童は発表を聞いて気づいたことを伝えたり、質問したりし、講師からもコメントします(写真2)。

児童からは、「毎日たくさんの事故が起こっ

ているのを知った」「3つのEが大切だということを知った」「学校内に危険箇所がたくさんあることに驚いた」「友達アイデアを聞いてなるほどと思った」「危ない場所を見つけたら先生や家族に伝えようと思った」などの感想が寄せられました。

安全授業マニュアルの作成も

児童が見つけた危険箇所と予防のためのアイデアをイラストでまとめた資料は、後日、全校児童に配布されました(図3)。

今後は、授業用のパワーポイント資料を学校に配布して、各学校で継続して取り組んでもらうことが目標です。